

新任薬剤師研修会に参加して

埼玉病院 薬剤科 三竹 真里子

出身大学：星薬科大学（平成25年）
興味のある分野：緩和医療、救急医療

私は平成25年4月より国立病院機構埼玉病院で薬剤師として採用になりました。少しずつ日々の業務に慣れ始めた頃、第16回新任薬剤師研修会に参加させていただきました。

研修の前半は「病院薬剤師としての自覚」「チーム医療（病棟薬剤業務について）」「チーム医療（緩和ケアチーム）」「医療安全とは」「3、4年目薬剤師からの提言」についての講義がありました。薬剤師としてこれから必要なことや、何が求められているのかといったお話を聴き、これからの自分の目標について考えることが出来ました。またどのように業務に向かい、学んでいけば良いのか模索している状態でしたが、3、4年目の先輩のお話を聴くことで取り組み方を考える良い機会となりました。

「チーム医療」では、今まであまり学ぶ機会のなかった診療報酬についての講義を聴くことができました。これからチーム医療の一員として病棟業務を行っていく上で知っていかななくてはならないものであると感じ、とても勉強になりました。また、チームの中での薬剤師の役割は考えていたよりも多岐にわたっており、他職種との連携・コミュニケーション力がとても大切であるということ学びました。研修後、実際に病棟業務に携わることになり、自分の知識のなさを感じ日々勉強をすることが大切であると痛感しています。これから経験をつみ、医師が実際に処方する前に処方設計に携われるような薬剤師になっていきたいと思えます。

後半は「小児科領域」についてグループ研修が行われました。小児ぜんそくに対するステロイドの吸入指導というテーマで、吸入療法を行うに当たっての問題点を踏まえて、デバイスの選択や指

導の工夫についてディスカッションを行うというものでした。

まずは実際に数種類のデバイスを用い、使い方や選択方法について確認をした上で話し合いを行いました。最初はなかなか意見が出なかったものの、チューターの方や小児指導を行っている薬剤師の方のアドバイスを受けるうちに、短時間ではありましたが活発にディスカッションをすることが出来ました。

今回のグループ研修では、自分の考えなかった視点からの考えを聞くことができたり、他グループの発表から様々な考えを知ることが出来たりとても刺激になりました。指導では薬についての知識だけでなく、その子供にあったデバイスの選択方法や親への指導等、多くのことを考えなくてはならないのだと改めて感じ、小児領域に関わらず指導をしていく上での業務に活かしていきたいと思えます。

今回の研修会で様々な講演を聴き、ディスカッション等を通して他施設の同期や先生と意見交換をしたことはとても大きな刺激となりました。研修の後、病棟業務にも携わるようになり患者さんと関わるが増えてきました。質問をすれば色々なことを教えていただける先生が多くいらっしゃるという恵まれた環境にいることに感謝し、これからさらに様々な知識を吸収して薬剤師として貢献できるよう、日々努力していきたいです。

最後になりましたが、このような貴重な機会を与えてくださった関信地区国立病院薬剤師会の先生方、ご講演頂いた先生方、研修に参加させていただいた埼玉病院の先生方に厚く御礼申し上げます。